

令和6年度

【相生市】 認知症地域支援推進員活動報告

【相生市】 認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：10名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
 - ・オレンジ・サロン（認知症カフェ）の運営支援
 - ・認知症ケアネットの普及・啓発
 - ・ロバ隊長の会（認知症担当者連絡会）への参加
 - ・見守りSOSネットワークの普及、啓発
 - ・認知症の本人、家族への支援、認知症家族の会の運営
 - ・認知症予防、早期発見に関する事業
 - ・認知症のある方の見守り支援（地域づくり講座）の実施

報告者氏名：（相生市長寿福祉室）川部 純平

【相生市】 認知症施策全体図

実施項目	相生市の取り組み
①認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進	・ 認知症サポーター養成講座 ・ キャラバンメイト連絡会の開催 ・ サポーター、キャラバンメイトのフォローアップ研修の実施
②認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供	・ 認知症ケアネットの作成、普及啓発 ・ 認知症地域支援推進員の配置 ・ 認知症初期集中支援チーム配置 ・ 認知症早期発見事業 ・ もの忘れ相談会（月 1 回）
③若年性認知症施策の強化	・ もの忘れ相談（月 1 回） ・ 認知症家族の会
④認知症の人の介護者への支援	・ オレンジ・サロン（認知症カフェ）の設置、運営支援、普及啓発 ・ 家族会（オレンジの会）の設置、運営

【相生市】 認知症施策全体図

実施項目	相生市の取り組み
⑤認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進	・相生市見守り事業の実施（見守りグッズの交付） ・見守りSOSネットワークの普及、啓発 ・ひとりあるき高齢者家族支援サービス事業（GPSの貸与） ・成年後見、市民後見制度の利用促進 ・認知症相談センターの設置（包括内） ・高齢者虐待防止に向けた取り組み ・介護予防推進講座における認知症講話 ・地域づくりの推進講座 ・自動車免許返納時の情報提供
⑥認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進	・認知症予防教室
⑦認知症の人やその家族の視点の重視	・オレンジ・サロンの設置、運営支援、普及啓発 ・若年性認知症家族の会

認知症を介護する家族の会(オレンジの会)の開催

<家族会開催の目的>

認知症の介護は精神的なストレスを抱えることが多く、介護をしている家族同士の交流を深めることや情報を共有することを目的として開催する。

<経過>

R 3. 7月 家族会開始 1名のみ参加

月1回開催するが、その後も2～3名の参加。参加者が増えないのはなぜ？との思いから、ケアマネジャー対象に家族会についてのアンケートを実施する（R 4. 6月実施）。

*アンケート結果

居宅介護支援事業所と小規模多機能型居宅介護のケアマネジャーに回答を依頼。

23名から回答あり。

認知症のある方を介護する家族同士の交流の機会が必要と思うか？との問いに、22名のケアマネジャーが必要と思うと回答。

アンケートからケアマネジャーも家族会の必要性を感じていることがわかり、ケアマネジャーを通じて参加者を募った。

R 4. 8月からケアマネジャーの案内により参加者が増えはじめる。

R 4. 8月 家族4名 ケアマネジャー2名参加

9月 家族7名 ケアマネジャー2名参加

～

R 5. 3月 家族3名参加

だいたい5～6名で参加者が固定されて家族会らしくなってきた。

* 家族会の内容

参加家族が話をしたい、話をするだけでいいと希望され、特にメニューは決めずに家族同士話をしていただいている。

* 家族会の効果

近況報告をするなどしながら回を重ねるごと、
家族同士の話も弾むようになってきた。

「とにかく話がしたい」と話される方がおられたり、お互いにいたわりあうような場面もみられるようになってきた。





オレンジの会 開催の様子

- ・ 市内にある福祉用具販売店のスペースをお借りして。
- ・ 珈琲や紅茶など、好きなものを飲みながら。
- ・ 手書きの名札を用意して、あたたかい雰囲気でお互いが話せるように心掛けています。

<今後の家族会について>

家族が認知症と診断された時、とまどったり、悩んだり不安になる気持ちを抱える人がほとんどではないかと思う。大切なことは家族が一人で抱えて悩まないことであり、そのために仲間づくりが必要であると考えます。

認知症の方が自分らしく暮らしていくためには、本人や家族の声を施策や地域に反映していく必要があります。

そのために、家族が仲間と出会え、つながりを持ち、多くの人と支えあえるような家族会となるよう今後も見守っていききたい。